

第2回おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会議事録

日時：平成26年3月28日（金）

午後1時30分～3時00分

場所：議会全員協議会室

出席委員 木村秀昭委員、 渡邊清治委員、羽鳥孝郎委員、矢吹久美子委員、市川昭維子委員、川上聖嗣委員、加藤馨委員、市川初江委員、藤間敬子委員、奥村知弘委員、長谷川嘉春委員、石黒俊行委員、小泉道人委員、市川渉委員
（ : 委員長、 : 副委員長）

事務局 福祉健康部副部長、高齢福祉課長、高齢福祉課副課長、介護予防担当副課長、高齢福祉課高齢者相談係長、高齢福祉課主査、高齢福祉課主任、高齢福祉課主事
介護保険課長、介護認定担当副課長、介護給付係長、介護保険課主査

欠席者 長谷川剛委員

傍聴者 1名

【議事】

委員の紹介

事務局

（説明）

- ・資料1「第6期おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会委員名簿」に基づき、錦織誠一委員死亡により市川渉委員が着任したことについて説明。

議題1 高齢者実態調査等の報告について

事務局

（説明）

- ・資料2「高齢者実態調査及び介護保険利用者等調査 調査結果報告書」に基づき、調査の結果報告について説明。

小泉委員

（質問）

- ・調査対象の3区分の違いは何か

事務局

（説明）

- ・高齢者一般は、市内在住の65歳以上の高齢者。居宅介護サービス利用者は、要介護認定者のうち在宅サービス利用者。サービス未利用者は、要介護認定者のうち在宅サービス未利用者である。

加藤委員

(質問)

- ・サービス未利用者の調査結果に、在宅サービスを利用しているという結果が出ているのはなぜか。

事務局

(回答)

- ・調査対象者を決定する段階で、タイムラグが発生することに伴うものである。また、一時的なサービス利用(住宅改修等)をして終わっている人が含まれた可能性もある。

渡邊副委員長

(質問)

- ・サービス未利用者の調査結果からサービス利用者は除外すべきではないか。

事務局

(回答)

- ・集計の際は除外すべきと思うが、現状は含まれている。

矢吹委員

(意見)

- ・アンケート調査が来てもどうして良いか分からない人がいることを考えて分析して欲しい。

事務局

(回答)

- ・例えば高齢者一般で、5,000人中回収できたのは3,392人であり、約3割の方から回答がなかったため、回答が届かなかったことについても考慮する必要性はあると感じている。

市川(渉)委員

(質問)

- ・アンケートはなぜ横書きなのか。縦書きにすることは検討しなかったのか。

事務局

(回答)

- ・縦書きにすることについては、検討していない。

市川(渉)委員

(意見)

- ・調査対象者は縦書きに慣れている世代のため、縦書きなら更に回収率が上がると思う。また、「高齢者ご本人について」とあるが、本人に対して「高齢者」という表現はどうかと思う。アンケートは読みやすいか、理解しやすいかなどを検討した上で作成すべきだと思う。

事務局

(回答)

- ・前回に比べて質問項目が増えたにも関わらず回収率が上がってはいるが、次回についても、見やすく、分かりやすいものにしたい。

川上委員長

(意見)

- ・介護サービス利用者本人や家族によって、サービスへの感じ方が違うと思うので、それらも踏まえた分析をして、今後に活かしてもらいたい。

石黒委員

(質問)

- ・高齢者一般、居宅介護サービス利用者、サービス未利用者ともに質問内容はほとんど同じものもあるようなので、それらについても今後作業を進める中で適切に活かして欲しい。

事務局

(回答)

- ・意図的に同じ質問をしているところもあるので、素案づくりに反映させていく。

議題2 国の基本指針(素案)について

事務局

(説明)

- ・資料3「第6期介護保険事業計画の策定に関する(国の指針に対する)神奈川県のお考え及び市町村老人福祉計画策定に関する神奈川県のお考えについて(素案)」に基づき、神奈川県のお考えについて説明。

加藤委員

(意見)

- ・介護保険3施設の整備について、施設が作られても現場を支える人がいないという状況もある。現在の利用率を見ても、必ずしもうまっているという状況ではない。そういう状況も考えて計画を作成して欲しい。
- ・調査結果を見ると社会参加率が低い傾向にあるため、参加してもらうためにはどのように誘導するかをボランティアの意義等も考えながら検討してもらいたい。

木村委員長

(意見)

- ・無償ボランティアから、いわゆる有償ボランティアにシフトしている現状もよく見極めてもらいたい。

石黒委員

(意見)

- ・実際に老人ホームでボランティアをしているが、確かに無償ボランティアよりは、最低賃金とまでは言わないが交通費程度の有償ボランティアの方が魅力的である。参加率も上がると思う。

小泉委員

(意見)

- ・勤務している施設では有償ボランティアの声は聞こえてこない。どちらかと言えば健康や話をするのが楽しみで来てくれている。

加藤委員

(意見)

- ・厚生労働省は労働力としてのボランティアを求めているという現状もある。

羽鳥委員

(意見)

- ・ボランティアについては地域性もあると思う。例えば、横浜でボランティアをすれば100人くらいすぐに集まるだろうが、小田原では難しい。人口規模によってボランティアの特性も変わってくるのではないかな。

矢吹委員

(意見)

- ・調査報告を見ると情報提供が足りないと感じた。もっと広報活動を行うべきではないかな。
- ・外に出られないから社会参加できないのではないかなと感じている。移動手段についても考える必要があり、交通や道路関係の部署等とも連携していく必要性も感じた。

市川(渉)委員

(意見)

- ・家族介護者への支援だけでなく、介護就労者も加えて欲しい。
- ・神奈川県保健医療計画はこの計画に盛り込まれるのか。

事務局

(回答)

- ・関連する部分については参考にして作成する。

羽鳥委員

(意見)

- ・地域にあった計画を作るべきと考える。施設を作るだけでなく、元気な高齢者を施設等で活用していくような視点も重要である。小田原のニーズにあった計画を作ってもらいたい。

杉山副部長

(回答)

- ・市でもプロダクティブエイジングを進める中、高齢者にいつまでも元気に地域で活躍していただきたいと考えている。そう言った中、アクティブシニア応援ポイント事業を実施するなど、高齢者が地域で少しでも張り合いを持って活動してもらえるような事業を展開している。更に、ケアタウン事業も着実に推進しており、助けて欲しい人と助ける人のマッチングを行うなど、地道だが支える制度も広げていきたい。

市川(昭)委員

(意見)

- ・老老介護の時代になっている。こういうことも計画を検討する上で、考えて欲しい。

藤間委員

(意見)

- ・地域でボランティアを募ってもあとが続かない。今の考えのボランティアでは厳しいため、今後は形を変えていく必要があると考える。

奥村委員

(意見)

- ・働きながら両親を介護する時代になっている。
- ・震災があった際、高齢者は本当に俊敏に動けるのか、この計画とは別かもしれないが検討して欲しい。

長谷川(嘉)委員

(意見)

- ・何のために計画を作成するのかを考えなければならない。この地域を良くする計画を作成して欲しい。

渡邊副委員長

(意見)

- ・ボランティアの質は変えていく必要があると思っている。市として、他の事業とタイアップしながら、経済効果も図れるような活性化ができればよいと思う。
- ・今実際に動いているものをどう活用するかも一緒に進められる会議になれば良い。

川上委員

(意見)

- ・グループホームのPRを行っているが、関心があがらず、人材も集まらない状況である。
- ・企業も定年退職者を排出するだけでなく、その先も考える必要がある。

議題5 今後の予定について

事務局

(説明)

- ・ 26年度は5回開催する予定であり、次回第3回を7月中に開催予定と説明。

(質疑なし)

議題6 その他

(特になし)

以上

平成26年4月 日

おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会
委員各位

小田原市高齢福祉課

第2回おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会の結果について

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

去る3月28日に開催いたしましたおだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会の会議記録が
まとまりましたので、ご査収ください。

今後とも、委員会の開催運営に特段のご配慮を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

事務担当 高齢福祉課 高齢者政策係
電話 0465-33-1842